

10 水稲高密度播種の導入

- 育苗箱1枚あたり乾粃200～300gで播種。田植え時は慣行と同じ本数を移植します。
- 使用する育苗箱数が大幅に減り、育苗日数も短縮できます。

【期待される効果】

1. 育苗培土・育苗箱などの物財費を削減
2. 播種・育苗・田植え時の労働費低減
3. 育苗ハウスの有効活用による所得増大
 - ・水田経営面積拡大への対応
 - ・遊休ハウスへの高収益性品目の導入



高密度播種 (300g/箱)



慣行 (140g/箱)

概要

メーカー	技術	播種量(乾粃) (g/箱)	育苗日数 (日)	苗丈 (cm)	葉齢 (葉)	10aあたりの 育苗数(枚)
ヤンマー	密苗	250～300	15～20	10～15	2.0～2.3	7～8 坪60株植
クボタ	密播苗	約250	10～21	10～13	1.5～2.2	9～11 坪50～60株植
井関農機	密播疎植	220～250	14	12～15	2.0～2.5	約6 坪37株植

育苗日数が長くなると、徒長・老化しやすいので、注意が必要です

※「10aあたりの育苗数」は、播種量や栽植密度により増減します。

コスト削減効果 (密苗の事例)

	慣行	高密度播種
育苗あたりの乾粃量	130g	250g
10aあたりの育苗数	18枚	10枚



10aあたりのコスト (円)	慣行 ①	高密度播種 ②	削減効果 ②-①
培土代	2,140	1,189	▲ 951
労働費	5,320	2,940	▲ 2,380
計	7,460	4,129	▲ 3,331

・削減効果は、新潟県が作成した「需要に応じた米づくり」パンフレットから引用
 ・労働費：慣行3.8時間、密苗2.1時間、時給1,400円で計算